

報告書

○ 業務名称

ナッジ理論を活用したうどん店における食環境整備モデル事業

○ 日時・場所

① 綾川町A店

2021年3月8日（月）～3月12日（金）の4日間 11:00～13:00

※ 3月9日（火）は定休日のため、除く。

② 坂出市B店

2021年3月15日（月）～3月19日（金）の5日間 11:00～13:00

○ 内容

各うどん店（セルフ式）において行動経済学のナッジ理論を活用し、野菜を使用した副菜の配置工夫※や保健所職員による野菜摂取を促す呼びかけ、チラシ（うどん店用ミニランチョンマット含む）の配布などを行った。

イベント前は通常スタイルで営業を行い、イベント中に野菜を使用した副菜の配置工夫や保健所職員による野菜摂取を促す呼びかけ等を行い、イベント後は野菜を使用した副菜の配置工夫のみを行った。

※野菜を使用した副菜（天ぷら、おでん、小鉢）を手前に陳列したり、レジ横に配置する等の工夫を行った。

○ 結果

イベント前後各1週間（平日）、イベント期間中1週間（平日）の来店者数に占める野菜を使用した各副菜を摂取した人数の割合は図のとおりとなった。なお、野菜を使用した副菜として、天ぷらはイモ類を除き、おでんにはこんにゃくを含んで集計した。

来店者数に占める野菜を使用した各副菜を摂取した人数の割合について、イベント中は特に野菜の天ぷらを選択する人の増加がみられた。一方、野菜おでん及び野菜小鉢については、本イベントによって選択する人の明らかな変化はみられなかった。

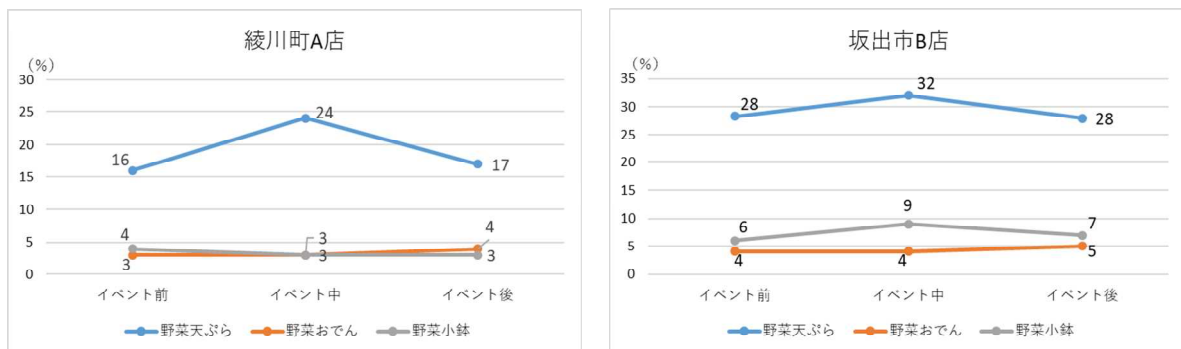


図 各期間中、来店者数に占める各副菜を摂取した人数の割合

○ 評価

- 野菜を使用した副菜の配置にナッジ理論を活用することで、来店者の野菜摂取量増加を自然に促すことができるのではないかと予測していたが、配置工夫だけでは有効性が低く、呼びかけやチラシの配布を組み合わせることにより効果が得られたと考えられることから、ナッジ理論を食環境整備に活用する際、野菜摂取の必要性の啓発など複数の仕掛けを組み合わせる必要があることが推察された。
- 多くの県民が利用するうどん店で実施したことによって、本事業のターゲット層である健康無関心層が多い働く世代に対し、健康について考える機会を設けることができた。